

令和元年度第1回近現代小部会議事録

日 時:令和2(2020)年3月17日(火)15:00~15:45

場 所:北海道庁本庁舎5階 法規審査室

参加者:桑原小部会長、平野委員、榎本委員、井上
委員、大藤委員、西田委員

事務局(鶴原・中谷)

1 開 会

2 議 事

- (1) 所属委員の紹介について
- (2) 経過報告と今後の計画について
- (3) 委員の担当分野について
- (4) その他

3 閉 会

1 開 会

【桑原小部会長】

- ・ただ今から、道史編さんに関する令和元年度概説部会近現代小部会を開催します。

2 議 事

(1) 所属委員の紹介について

【桑原小部会長】

- ・昨年の5月に概説部会の委員を追加任命した。初対面の方もおられると思うので、小部会長の私から名簿に従い指名し、それぞれ自己紹介を簡単をお願いする。本日は北海道博物館の小川副館長のご欠席以外は皆さん揃っている。
- ・私は編集長の桑原です。どうぞよろしく申し上げます。

【平野委員】

- ・平野と申します。概説部会に最初から参画させていただきまして、これから近現代の方もやらせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

【榎本委員】

- ・札幌市公文書館の榎本です。よろしく申し上げます。

【井上委員】

- ・北海道大学大学院文学研究院の井上と申します。専門は日本近現代史で政治史、政党史で、北海道の地域の特色を生かしながら研究を進めている。ご指導の程よろしく申し上げます。

【大藤委員】

- ・大藤と申します。北海道の近代の労働史を専門にしており、大学の頃からタコ部屋労働について調査研究しており、今まで培ってきた知識などを少しでも生かしていきたい。よろしく申し上げます。

【西田委員】

- ・札幌女性史研究会の西田です。40年間ほど北海道をフィールドにして女性史を研究してきました。その間、自治体史の編さんも、『新札幌市史』や『新千歳市史』などに20年近く携わってきました。よろしく申し上げます。

(2) 経過報告と今後の計画について

【桑原小部会長】

- ・資料1に、これまでの概説部会の活動状況が記されている。概説部会は、これまで平成30年度に3回、令和元年度に1回の計4回開催しており、議事内容は資料に詳しく記されている。
- ・計4回開かれた結果、導かれた結論の1番目は、概説部会の中に2つの小部会を設置し、それぞれが、前近代の北海道と近代の北海道の具体的な内容について検討すること。
- ・2番目に、委員が全体的に高齢化しているので若手を追加登用すべきという意見があったこと。
- ・3番目に、概説の名称を検討した結果、『北海道クロニクル』として、できれば上下2巻に分けるということ。なお、適当なサブタイトルを付けたらどうかとい

うことになった。

- ・ 4 番目に、概説の近代で取り扱う範囲は、明治元年から第二次世界大戦が終了した昭和 20 年の 8 月までの期間とすること。昭和 20 年以降は現代史の担当者が執筆することになっている。
- ・ 5 番目に、概説の記述内容はいろいろと議論があったが、通史型にすること。ただし、「道史編さん大綱」の中で図版類を適宜使用することが決められているので、それを駆使すること。なお記述のレベルは、高等学校の日本史の教科書の水準を維持してはどうかという意見があった。
- ・ 経過報告は以上ですが、ご質問、ご意見はございますか。
(なし)
- ・ それでは、編さん計画について、事務局から説明してください。

【中谷主幹】

- ・ 資料 2 は昨年 7 月の道史編さん委員会で決定された道史編さん計画ですが、このうち『北海道クロニクル』下巻の刊行を中心にご説明する。
- ・ 概説の誌名は『北海道クロニクル』とし、適当な副題も付けるが、副題は上下巻で別々であっていいとなっている。刊行年度は 2027 年度、つまり 2028 年の 2 月から 3 月が目途になる。
- ・ 刊行の考え方では、紙媒体では概説上下巻各 400 頁、A 5 判並製本で無償分 1,400 冊、有償分 3,000 冊を予定、一般の書店等でも販売することを考慮している。また、デジタルデータによるインターネット公開を行うほか、今後の技術的な進歩や普及状況も踏まえ、電子書籍も検討するとしている。
- ・ 編さんの方針としては、『新北海道史』以降の新たな研究成果を反映させて、考古から現代に至る北海道史を、新たな視点でわかりやすく叙述するという、記述中心の通史型にするがビジュアル的な要素も取り入れ一般道民も親しみやすい構成とすること、道民が書店等で手軽に購入できるものにするということ、をあげている。
- ・ 最後に、資料収集や資料情報の提供では、広く道民の協力を求め、編さんの進捗状況や調査研究の成果は、ホームページで逐次公開するとしている。なお、今月下旬には機関誌『北海道史への扉』を WEB 上で公開する。各巻刊行直後には委員による講演会を実施し、道史に対する興味関心を深めるとしている。
- ・ 続いて資料 3 の編さんスケジュールを説明する。毎年 1 冊又は 2 冊ずつ刊行していくこととしており、現代史の資料編から通史編への順で刊行していく。
- ・ この小部会については、本日の第 1 回小部会の後、2021 年度に第 2 回の小部会を開催する。資料調査は 2022 年度に記されているが、中心となる時期ということであり、必要な資料調査はそれ以前でも可能。2023 年度から執筆に入り、校正、入稿、校正を経て 2027 年度末に刊行予定となっている。

【桑原小部会長】

- ・ ありがとうございます。この概説は 2027 年度に刊行予定なので若干時間がある。2021 年度の小部会では、今のところ、既存の北海道史の通史や概説の項目の検討をしてはどうかと考えている。例えば山川出版社の『北海道の歴史』、北海道新

聞社の『北海道の歴史』などの既存の概説書が、どういう項目を取り上げているかを見直し、それをベースにして、『北海道クロニクル』の考え方を構築したいと考えている。

- ・2022年度に資料調査をすとなっているが、それ以前でも予算的には可能ということなので、2021年度、2022年度に必要な方は資料調査に手を挙げてください。原稿執筆は2023年度から2025年度にかけてで、2026年度に校正、2027年度に刊行するというスケジュールになっている。
- ・以上ですがご意見、ご質問はございませんか。

【大藤委員】

- ・例えば、私の専門分野である囚人労働、タコ部屋労働、朝鮮人等外国人労働者の強制労働などの分野では、既に調査が行われて、開拓殉難者の調査報告書が出されているが、道史編さんの視点から改めて原資料にあたる必要があると考えており、資料調査を前倒しで行う必要があると考える。

【桑原小部会長】

- ・先ほど事務局から聞いたところでは、今年の3月はコロナウイルスのせいで道外調査がさっぱりできないということだった。出かけることができるようになるのは今年の下半期くらいか。

【轟原室長】

- ・来年度早々にでも、各部会のそれぞれの委員が、どこにどれくらい資料調査に行きたいかの希望を意向調査させていただき、こちらで時期などを調整したいと考えている。

【桑原小部会長】

- ・この時期はまだ現代史中心なので、正式には予算は配分されていないということですが、やりくりをすれば不可能ではないそうなので、年度明けの4月か5月の意向調査に希望を出してください。

(3) 委員の担当分野について

【桑原小部会長】

- ・資料4をご覧ください。今のところ、明確に担当分野が決まっているのは北海道博物館の小川副館長だけ。この方は近代のアイヌ史を担当すとなっているが他はフリーの状態。私の方で若干考えて、担当時代を振り分けた案になっている。
- ・開拓使・三県時代を榎本委員。道庁時代前期を私と平野委員。道庁時代後期を井上委員と大藤委員と西田委員。ただし道庁時代前期と後期をこの大正7年で区切って、一切触れないという意味ではなく、若干幅があるが、大まかな担当時期を設定した方がやりやすいかと思いこの表をつくってみた。皆さんのお考えを自由に出してもらい最良の方法を考えてみたい。

【榎本委員】

- ・時代を3つに分け、私の場合は開拓使・三県時代を全般的に書くという意味合いか。テーマによっては後の時代にまで入って続けて書いてもいいということか。

【桑原小部会長】

- ・開拓使・三県時代はアイヌ史を除いて基本的に榎本委員の担当分野と考えた。編目をどうするかに絡んでくるとは思う。

【榎本委員】

- ・時期区分だけではなく、もう少し編目やテーマについて何らかの考え方を示していただかないと、引き受けるとも答えられない。

【平野委員】

- ・今、項目について2021年度に検討しようという話があった。項目を調査検討するにあたって、とりあえずこの時期区分で、それぞれが項目について洗い直し、それを出し合って全体で項目候補を整理する。その中でどういう形で担当していくか最終的に決めていくのがやりやすいと思う。

【桑原小部会長】

- ・それでいいです。来年度の項目検討の担当範囲と考えてください。
- ・北海道新聞社には榎本守恵先生の『北海道の歴史』があり、山川出版社にも『北海道の歴史』のほか『北海道の百年』という本がある。どういう記述がされているかを検討してみてもどうか。

【西田委員】

- ・スケジュール表を見ると2020年度は空欄になっているが、早速4月から手を付けるべきか。

【平野委員】

- ・意外と時間はないと思う。来年度は1年かけてそれぞれの担当分野を洗いざらい探っていき、2021年度の初めくらいにそれを集約するということにした方がよい。

【桑原小部会長】

- ・平野委員と後で相談して、メンバーの担当範囲を決めて連絡します。榎本委員、それでいいですか。

【榎本委員】

- ・いろいろな概説本の開拓使・三県時代の項目を検討して候補をつくるということで分かりましたので、それで結構です。

【西田委員】

- ・私たち3人は道庁時代後期になっているが、既刊の本から時期区分に当てはまる場所を検討して項目候補を抜き出すという作業を4月から始めると考えた方がよいですね。

【平野委員】

- ・それぞれが持ち分の項目を出してみて、それができ上がったところで、調整しないまま出して並べて見ればよいと思う。3人で担当分野の中を1つにまとめるという作業まではする必要がないと思う。

【西田委員】

- ・クロニクルというタイトルにすると、本のスタイルがクロニクル様式、年代記様式にある程度縛られないか。
- ・私もそれほどたくさん知っているわけではないが、ドナルド・キーンが『私と20

世紀のクロニクル』という単行本を出している。これは自伝的なものだが、年代を追って隙間なく辿っていく、年表を詳しくしたような形でまとめられている。

『恵庭年代記』も拝見したが、A4判写真が多く使われていて、あまり頁数は多くないが考古の時代から現代までに亘っている。市町村史なので項目が限られており、年代記と称しながら隙間が多く、とても苦勞してつくられたことがわかる。

- ・通史型を求めながらも年代記の形式の両方が合致したスタイルを作り上げていくのはかなり難しい。亜瑠西社の『北海道の歴史がわかる本』のトピック型の本や『北海道史事典』を兼ね合わせた形の、例えば1項目を4頁と決めるような様式で時系列を追って書いていけばクロニクルスタイルになる。
- ・通史型の『新北海道史』概説編はヒストリースタイル。今回はそうではなく、若い人たちにも読んでもらえるように写真や図をふんだんに使いながらクロニクルでやっていこうと決まったものだから、編目構成をつくった後には、クロニクルスタイルを決めていく作業が次に出てくるのではないかな。

【桑原小部会長】

- ・先週の前近代小部会では、こういう話は話題になりましたか。

【鶴原室長】

- ・その話はなかった。
- ・厳密なクロニクル型、年代記型というスタイルで名前を付けたというよりも、今は若い人の間で歴史に対するイメージとして、懐古的な意味合いを感じさせつつ、取っつきやすいという意味合いから、概説部会でクロニクルという言葉に決めた。
- ・その名前を付ける以前に通史型がいいのかトピック型がいいのかという議論はずっとしてきていて、そこでは通史型という結論が出ている。クロニクルという名前は付いていても、あまり厳密な学術的な用語ではないということ。

【桑原小部会長】

- ・「概説」などという名前では、『北海道現代史』の概説と混同されるというので、独立した書物ということを明確にするために敢えて違った名前を付けた方がいいという意見が出て、『北海道クロニクル』になったという議論の流れがある。クロニクルスタイルというものがあるとしてもこだわることはないと思う。クロニクルスタイルでやっていけば、おそらくトピック型の歴史書になってしまう。

【西田委員】

- ・クロニクルは、語感・響きがとてもいい。年代記の様式にはあまりこだわらないで北海道型クロニクルをつくるということですね。

【桑原小部会長】

- ・そう。クロニクルスタイルの歴史書でなければならぬわけではないということ。

【西田委員】

- ・時系列に並べてこの時代区分で通史的に通していけば一定のクロニクルにはなる。

【榎本委員】

- ・道庁時代後期を昭和20年で切るのは現代史がそこから始まるからか。

【鶴原室長】

- ・『北海道現代史』の方は、基本的に昭和20年8月から扱うことになっている。

【桑原小部会長】

- ・役所の年代に合わせているわけではない。大正7年で切ったのも経済的な仕組みを含めて道庁の政策・構造がそこで変わるから。

【西田委員】

- ・作業工程としては、編目の洗い出しをしてみて、あらかじめの編目構成を作るまではこの担当分野でよいが、例えば私の得意分野からいうとジェンダーで、開拓史時代から、あるいはその少し前の函館の山の手遊郭、幕末あたりから戦後の昭和31年の売春防止法までの女性の人権のことを通して書ければいいと思う。編目構成を作った次の段階で、誰がどこを執筆するかとなった時に、遡って開拓使時代の遊郭などを書きたいとなると分担が変わってくると思う。

【桑原小部会長】

- ・近代の内容については相談してください。現代には別の担当者があるのでできません。

【西田委員】

- ・現代は譲るとして開拓使時代まで遡って分担執筆できますね。

【桑原小部会長】

- ・協議してください。そういう希望が出てきたら部会を開いて決めます。

【井上委員】

- ・私は、道庁時代の後期を専門にしている。原敬内閣から敗戦までを扱うということで、その前後の時代には詳しくないし、他の分野についてもそれほど知識があるわけではないので、大正7年から昭和20年までを書かせていただけるとありがたい。
- ・写真や図表を増やすことも意識しながら資料調査をしていきたい。

【桑原小部会長】

- ・新年度の項目検討の案は、私と平野委員で各委員の担当箇所を決めて、新年度に入ったらお示しし、編目構成を作り上げていく第一段階としたいが、よろしいですか。
- (はい)

(4) その他

【桑原小部会長】

- ・新年度に出張に行きたい方は4月以降に事務局から連絡がありますので、連絡してください。
- ・これで近現代小部会を終わりにします。ありがとうございました。

【閉 会】

(了)